

1. 活動の概要

10月10日(木)、浜田ろう学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。はじめに浜田ろう学校の先生が、昔のさまざまな道具を紹介し、それを見ながら児童の皆さんと一緒に何に使われていた道具なのか考えました。雨具に使われた蓑(みの)や笠、わらで編んだ草鞋や和傘、ところてんを作る道具などもあり、先生がつくった年表を見ながら、「明治時代?」「江戸時代!」などそれらが使われた時代についても考えました。

次に、島根県埋蔵文化財調査センターの職員が弥生時代～奈良時代の本物の土器を紹介し、1,200～2,000年前のものであることを説明しました。児童の皆さんも代わる代わる土器に触ったり、そっと持ち上げてみたりしてその重さや質感を感じていました。

最後に、まいざりという方法で火おこしをしました。人間が火を使うようになった歴史や火おこしの方法の移り変わり、火おこしをするときの注意点などの説明を受けたあと、いよいよ火おこしです。

2～3人が一組になって協力しながら行い、途中から先生も加わって、一生懸命頑張りました。でも煙が出たり、火種ができませんでした。残念ながら火がつくところまでは行きませんでした。ですが、その後行われた校外宿泊学習でも火おこしに挑戦し、見事に火がついたそうです。

2. 活動の様子



昔の傘をさしてみます。



2000年前の土器に触れてみよう。



火おこしを一生懸命がんばりました。

3. 子ども塾を終えて

1) 児童の皆さんから…

- 火はつかなかったけれど、自分もみんなもがんばることができた。
- 火おこしで、なかなか火がつかなくてむずかしかった。あと少しでつきそうだったけどつかなくて残念だった。でも楽しかった。
- 火がつかなくて残念、がっかりした。
- 昔の人がどんなお菓子を食べていたのか知りたい。

2) 担任の先生から…

- 歴史に関わる学習を行ってから火おこし体験をすることで、歴史を体感することができた。また、後日の宿泊学習で火おこしを行う予定だったことから、その事前学習としても大変良かった。
- 歴史を感じる学習で、本物の土器を触らせてもらい、児童が関心を持って見たり触ったりしていた。
- とても良い教材をたくさんお持ちなので、授業で使わないともったいない。火おこしのほか、土器などの用意や学習のねらいにあわせて相談にのっていただいたことも助かりました。

3) 埋蔵文化財調査センターから

- 担当の先生は、古い道具を集められたり手作りの年表をつくれるなど、良い授業にしようという意欲を感じました。児童の皆さんも授業の最初から最後まで、ちゃんと説明を聞いて、積極的に発言して熱心に取り組んでいました。
- 火おこし体験では、残念ながら火はつきませんでしたが、みんなあきらめずに最後までがんばったことに感心しました。